

みんなが幸せになるために

伊勢原市立成瀬中学校

3年 須藤 寿友

先日、ある出来事がありました。電車に乗るために駅に行つた時のことです。駅のエレベーターは、扉の幅も広く開閉ボタンも低い位置に付いています。今までこのエレベーターを見て使う人のことを考えているなと思つていました。この日、車椅子に乗つた方が一人でエレベーターに乗るうりとして見るのを見かけました。その様子を見ると車椅子の操作がうまくいかないのか、なかなかエレベーターに乗ることができないでいました。僕は、いつもはエレベーターには乗りませんがエレベーターに乗るふりをして車椅子の方が乗るまで開くのボタンを押しました。その時車椅子の方に「ありがとうございます」とお礼を言われました。少し照れ臭かったです。そして、車椅子の方と別れて電車に乗つたあと、なんだか心があたたかくなりました。その車椅子に

乗った方とは初めて会って少しの会話を交わしただけなのに。

「福祉」とは何なのか。僕は「福祉」という言葉を聞いたり見たりした時に、はっきりと何かということは分かっていますでした。そこで「福祉」という言葉について調べてみると、「福祉」には「幸福」や「豊かさ」という意味がありました。英語では「幸福」を「wellfare」と表わすことが分かりました。「wellfare」は作られた言葉で「well」より

と「well」生きる」を合わせた言葉で「よりよく生きる」という意味になるそうです。僕は「福祉」とは障害を持つ方や高齢の方など特定の人を対象にそうでない人が手助けをしたりすることだと思っています。だから自分には何ができるのか何をすれば「福祉」につながるのかは、きりわかりませんでした。そして、それを行うことがとてもむずかしいことだと思っています。しかし、駅での経験でその考えが間違っていたのではないかと

思いました。僕は、少しだけ勇気を出して工
レバーターのボタンを押し車椅子の方を助け
ることができたかもしれせん。しかし、逆
にそのことによつて交流が生まれ僕の方があ
たたかい気持ちになり幸せにさせてもらつた
からです。

このことがき、かけで自分や他の人のしあ
わせ、生き方について考えてみました。しあ
わせやよりよい生き方は、自分と他の人を比
べて良い悪いを決めるのではなく相手の声に

耳を傾けることが大事なのではないかと考え
ました。身近にはいろいろな人がいます。障
害があつたりおなかに赤ちゃんかいても外見
ではわからない方もいます。生活面や経済面
でいろいろと困つている人もいます。いろい
ろな人がいる、そのことに気付けるようにな
ることが大切です。そして、相手にとつて何
が必要なのかを理解することも大切です。ど
んな人でもよりよく生活するために周りの人
ができることはたくさんあると思います。

今は、コロナウイルスの影響でなかなか人と人が直接交流することが難しい状況です。でも、こんな時だからこそ自分には何ができるのかを考え行動することが大切だと思います。『福祉活動』と云うとなんとなく難しいイメージで何か大きなことをしないといけないのではないかと感じてしまい、なかなか行動に移すことができません。でも、あまり難しく考えずに自分ができる小さなことであっても『福祉』よりよく生きる活動』ができていくと思います。みんながそのような気持ちで生活すればそれがどんどん連鎖し、自分も幸せに生活できるようになると思います。

僕たち中学生がまず意識を変えていくことです。そして、ひとりひとりがお互いの個性を認め合い助け合っ、て多様性の時代を共に暮らせるような世の中にしていくことが必要です。僕自身、できることをこれから積極的に行動に移していきます。